

30周年記念大会

183名が参集、大盛会の総会・懇親会

静中・静高 関東同窓会 会報

第三十回 静中・静高関東同窓会 総会・懇親会が開催されました。

総務担当副会長 野方重人

本年度総会・懇親会が七月九日、千代田区神田駿河台のJRお茶の水駅近くの「中央大学駿河台記念館」に二〇〇名に近い同窓会員が集い、午後六時から三時間に亘って盛大に行われました。本年の担当幹事は82期で、まとめ役の田畑秀典氏を中心に一年間に亘って情熱をもって準備に当たってこられた結果、多くの会員の出席を見ることができました。

総会は校歌斉唱で幕を開け、続いて77期野方重人副会長を議長に選出して、同議長の下で議事に入り、まず77期清水雅尚理事が昨年度事業及び決算報告、71期後藤弘枝と89期鳥巢修両理事が監査報告を行い、続いて清水理事が本年度事業計画と予算を提案、それぞれの案件が承認された(別稿)。

本年は会長・副会長・監事の改選期に当たっていたため、これら役員を選出を行った。その結果、会長に59期の清水汪氏、副会長に67期児島英男氏、71期浦田彰氏、77期野方重人の三名、監事に74期松下晴一氏、89期鳥巢修氏が選出された。

上杉重吉前会長は約四年間の間会長を勤められたが、それ以前の二十年間を副会長として本会を支えられてきた方で、本会に多大な貢献をされた。清水新会長の就任の挨拶が引き続き行われ、その中で上杉前会長に対するねぎらいと賞賛の言葉が述べられた。また清水新会長の提案で上杉氏を本会の顧問として選出した。

引き続き懇親会に入り、来賓としてお迎えした母校杉本淳光教頭、櫻井一男本部同窓会会長、蔭山昌弘本部同窓会事務局長の各氏からご挨拶をいただいた。

ここ数年恒例となっている同窓生による講演は77期石山建一氏が行った。(講演内容は別記) 同氏の多彩な野球人生経験の中から選んだ珠玉の教訓の数々が語られ、聞き入った同窓生の大きな感動を呼ぶものであった。

懇親会では82期の名物男、軍艦旗応援の増井一之氏がわざわざ静岡から馳せ参じ会場の雰囲気盛り上げた。さらに119期原田夏希さんが本年九月スタートのNHK朝の連続ドラマ「わかば」の主役に抜擢されたことが93期大羽章弘理事から紹介され、ビデオの放映もあり大いに盛り上がった。先輩後輩・同期生の交流の輪が随所で盛り上がり、老いも若きも故郷を想い、母校を思いながら一体となって楽しんで有意義なひと時であった。

静中・静高関東同窓会
会報 第58号
平成16年12月30日発行
編集人 村松貴彦





静中・静高関東同窓会会長

59期 清水

汪ひろし

「あいさつ」

七月九日開催の静中・静高関東同窓会の総会で、はからずも同窓会会長に選任されました。もとより浅学非才ですが、少しでもお役に立てるよう努力する覚悟です。会員の皆様には同窓会の発展のために宜しくご協力を賜りますようお願い申し上げます。

輝かしい歴史と伝統を有する静中・静高の卒業生であるとの誇りを胸に秘めて各界各方面でご活躍の皆様にとって、年に一度の同窓会総会は、その絆をたしかめ、心を楽しませる会合です。どうぞ皆様、年に一度の総会に出席し、また同期の会を盛んにして、同窓会を盛り上げてください。

本年度の総会の運営当番期は82期でした。統括の田畑秀典氏ほか、82期同窓生の皆様ご苦労さまでした。また82期の名物男、軍艦旗応援の増井一之さん(写真)、が遠路関東同窓会応援に駆け付けてくださいました。ありがとうございました。

来年は83期の方々が総会・懇親会の運営に協力いただけるというところで、すでに山本雅敏さん・久野淑子さんから幹事さんの打ち合わせが始まっています。「団塊の世代がお手伝いします」と、久野さんの決意が13ページに掲載されています。



静岡の万葉を歩く

(二十九)

51期 原崎 郁平

浜北市平口五〇五三、万葉の森公園に次の歌碑が立っている。

わが妻は

いたく恋ひらし 飲む水に影さへ見えて

よに忘れられず

若倭部身麻呂

(巻二〇・四三二)

昭和六十三年十月十五日建立 建立者 浜北ライオンズクラブ 揮毫者 桜井満(国学院大学教授)

寸法は高さ二百センチ、幅百六十五センチ、厚さ三十センチで根府川石に彫られている。

大意は「妻はひどく私を慕っているらしい。飲む水に影まで見えて、どうにも忘れられない」歌碑が立っている万葉の森公園は、遠州鉄道・浜北駅西方約二キロ強のところにある。

碑裏に次の言葉が刻んである。「万葉集は古代国家誕生前後のみずみずしい民族の歌声を収めている。八世紀の中頃にここ遠州国鹿玉郡(あらたまごうり)から防人として出立した若倭部

身麻呂(わかやまとべのむまる)の歌である。

わが妻はひどく恋い焦がれているに違いない、飲む水に面影さえたつてどうしても忘れられないという、心に信じることのできる真実

に生きていたのである。まことに心は千数百年を隔ててなおわれわれの心に響いてくる。万葉歌揮毫者 国学院大学教授 桜井満 創立二十五周年を記念し郷土文化の発展を期しここに碑を建つ 一九八八年十月十五日 浜北ライオンズクラブ

この地方に次の伝説がある。今は浜北市になっているが旧赤佐村の於呂神社の西に周囲約百十米位の池がある。三方原の合戦の時家康公が馬を洗ったから御馬ヶ池と呼ばれている。於呂神社の付近の子供たちが二、三人でお宮からご神体の藁人形を池に持ち出し、水浴させてやるのだと言って頭から水を掛けゴシゴシ洗っている。通りがかりのある人が「勿体ないことをす



る、この悪ガキども」と叱り飛ばして恭しく神社に納め奉ったところがその人は二、三日経って悪い、熱が出て苦しんだ。神様と仲良く遊んでいた子供たちを叱ったのでそのお怒りに触れたのだらう。このことがあって「子供好きな神様」と知れわたり、なお一層の信仰が高まった。時代は明治三十年の頃でつい近頃のことである。

静中・静高は明治十一年に淵源を発する高等教育の伝統校です。同校卒業生の内、関東在住者の親睦を深めるために設立されたのが静中・静高関東同窓会です。

平成十六年

静中・静高関東同窓会講演会

講演者 77期

石山 建一氏

久能山の石段を登って

足腰を鍛えた

こんにちわ77期の石山です。

諸先輩の前で大変僣越でありすが、ご指名ですので話をさせていただきます。

振り返ってみれば私の人生は野球一筋だったと思います。子供のころは柔道が好きで将来は柔道家になろうと思いい、一生懸命練習に励んでいました。それ



が高松中学に入ると柔道部がなく、野球部に入っていました。私が野球の道に本格的に進む転機が中学二年生の夏に起きました。

1956(昭和31)年静岡高校は夏の甲子園大会で、長野県の伊那北高校と対戦し、高校野球史上初のナイターになりました。野球部員だった私は練習を終え、宿直室の前を通りかかりました。その時、担任の牧野明先生(現在・静岡学園理事長)が甲子園の実況放送を聞いていた宿直の先生に「静岡どうした？勝った？負けた？」と聞きましました。「負けだよ」。牧野先生は「ああ、やっぱりジんクスは破れなかったか！」と言いました。私は「ジんクス」の意味が分からなかつたので質問しました。「静高はお坊ちゃん学校で、井の中の蛙だから甲子園に出るけれど、いつも一回戦で負けて帰ってくるんだよ。それがジんクスなんだ」と説明してくれました。

そのときの先生の悔しそうな顔を見て、何故か、私に激しい闘争心が沸き、「俺は中学を卒業したら静高に入り、そのジんクスを破ってやるう！」と決心しました。後になって思えば、これが私

の野球人生の第一歩になったと思います。

私の実家は徳川家康公を祀る久能山東照宮の近くにあり、「静岡のジんクス」を破ろうと決心した私は良い野球選手になるためには足腰を鍛えなければいけないと思い、「よし、毎朝学校に行く前に久能山東照宮の千五百九段の石段を登ろう」と決め、トレーニングを開始しました。握り拳大の石を海岸から拾ってきて風呂場に置き、野球選手はスナックが強くなければいけないから毎日風呂に入るときに右手200回、左手200回水の中で石を握って手首の柔軟性と強化を図り、風呂場の縁につかまり、腕立て伏せを毎日200回やりました。また握力強化のため自転車通学のかたわら軟式のテニスボールで交互に握りました。毎朝石段登りをしていて私を見て、周りの人たちはほとんど農家の人たちがたから「石山のケン坊は、頭がちよっとおかしくなつたんじゃないか？なんであんなに石段を登ったり降りたりしているのだらう」と、当時はそう思ったそうです。後に私が甲子園大会で準優勝して帰ってくると「石山はあそこで野球のためのトレーニングをしていたのだ」と分かります。現在では中学生、高校生もそこでトレーニングするようになりました。

私は石段登りしながら「どうせやるなら徳川家康公が天下を取ったように、俺は日本一のショットになろう！一回戦負けのジんクスを破ると同時に日本一になろう。この苦しいトレーニングはそのためだ！」と毎日念じながら走っていました。その時や選手時代はまだ上手くいく方法は気付きませんでした。後に監督になってから分かりました。

イチロー選手は目標を

明確に持っている

現在、大リーグのシアトルマリナーズで大活躍しているイチロー選手の小学生時代の日記を見ると「自分は365日のうち、360日は激しい練習をしている。俺は必ずプロ野球選手になる」と「なりたい」ではなく「なる」と確信を持っています。彼は「プロ野球選手になるためには先ず甲子園に出場することだ」と考え、愛知県の高校では一番プロ野球選手を輩出している学校はどこかと調べ、愛工大名電に行きました。イチローは二回甲子園にピッチャーとして出場しました。十二球団のスカウトの中でイチローのバッターとしての素質を見抜いたのがオリックスのスカウトの故・三輪田勝利でした。彼は早稲田の野球部で私の三つ後輩でした。イチロー選手は目標を設定したらそれに向かって準備を早い段階からはじめていたということとです。私が先ほど「上手くいく方法に気づいた」と言ったのは、監督になって「このチームは何年後に優勝させよう！この選手は何年後にプロ野球選手にしてやろう」と目標を立てたら、先ず一年目はどうするか、二年

石山氏プロフィール

静高1960年夏の甲子園大会で準優勝時のキャプテン。早大に進みさらに日石でも選手として活躍。監督として早稲田大、プリンスホテルで実績を上げ、読売ジャイアンツに招聘され、編成部長として長嶋監督を助けた。現在ではアマに戻り全国に講演活動、野球指導に忙しい。

目はどうするか、三年目はどうするか、半年は、三ヶ月は、一ヶ月は、一週間は、一日はどうするかを考え、コツコツはじめることです。それが成功する「コツ」だと思えます。案外「ああしたい、こうしたい」と思っているもなかなか実行しないものです。イチロー選手はそれを小学生時代から実行していたわけです。

静高に進んだ私は、一、二年生の時は予選で負け、二年生になりキャプテンになり春の甲子園大会に出場しましたが、ここでも一回戦平安高校に延長13回、2対3で負けて帰ってきました。最後の夏、静岡商業に1対0で勝ち甲子園に行きました。

初戦の相手は島根県の大社高校でした。そのキャプテンがトップバッターで非常に足の速い選手で、出塁するといきなり、二盗、三盗してチームを乗せていくチームカラーでした。私はショットを守っていて「何とか

その打者だけは出塁させたくない。投手は二年生の石田君ですから、先頭打者を出したら浮き足だってリズムに乗れないのではないか」と思っていました。その一番打者がいきなり投手の石田君の足元に弾き返し、センター前にヒット性の打球を打ちました。私は「この選手だけは出塁させたくない」と無我夢中で打球にダイビングしました。それがまぐれでグラブの先の網に入り、直ちに立ち上がり一塁に送球しました。一塁塁審の右手が拳がりアウトの宣告、観客から万雷の拍手が起りました。後にベースボールマガジンに「石山入神の技」という見出しで、このファインプレーについて書いていただきました。決勝戦では法政二高に0対3で負けました。しかし中学時代に立てたジンクスを破り、ベストナインに選ばれ日本一のシヨートになることができました。

私は昭和三十六年に早稲田大学に入学しました。前年の三十五年は歴史的な早慶6連戦が行われ、優勝をかけた大一番が引き分けて再試合、早稲田の安藤元博投手が6連投し、優勝した伝説的早慶戦でした。

主力選手が抜け、早稲田はBクラスが続き低迷しました。石井連蔵監督はOB会から排斥運動が起き、私たちが四年生になる前に辞めてしまいました。当時の早稲田の監督は注目されていましたが、「次期監督は誰がなる」とか自薦、他薦の名前が連日新聞紙上を賑わせ「揺れ

に揺れる都の西北」と連日のようにスポーツ紙は書き立てていました。

なかなか監督は決まらなかつたのですが、早稲田の大長老である飛田穂州先生の一言で石井藤吉朗さんが監督に就任しました。石井さんは旅館の社長さんでしたから、短期のつもりで監督を引き受け、早く後継者を見つけ、バトンタッチする予定だったそうです。ところがそれまでずっとBクラスのチームが石井さんのムードに選手が乗せられ、いきなり優勝しました。慶応のエースは六大学で初の完全試合をした渡辺泰輔投手で波に乗っていました。秋はクアウトしての優勝です。秋は慶応が優勝しました。

私は卒業すると日本石油に入社しました。その二年目に石井監督から「俺の後に早稲田の監督をやってくれ」と言われましたが、まだ現役の選手でしたからお断りしました。石井さんは早くから「自分のあとは石山にやらせよう」と考えていたようです。私は日石で七年間プレーし、都市対抗や全国大会などで七回優勝し、第一回のベストナインのシヨートに選ばれたり、十分に企業スポーツをやらせていただいたので、仕事をすつつもりで選手を引退しました。石井さんから「選手を辞めたのだから監督をやってくれ」と二度目の誘いがありました。さらに、「俺は十年監督をやった。石山、俺の後を引き受けてくれ」と三回目の誘いがきました。私は自

分の恩師が三顧の礼ではないが、三回も声を掛けてくれた熱意に腹を決め、日石を退社して母校早稲田の監督に三十一歳で就任しました。

早稲田の監督として スピードを取り入れる

ある日、野球部長の榎山欽四郎先生と石井藤吉郎監督に連れられ、原宿の国土計画(現・コクド)に行きました。そこで初めてお会いしたのが西武の総師・堤義明オーナーでした。榎山先生が「堤さん、石山は母校早稲田の監督になるために日本石油を退社した。ついてはあなたは早稲田の先輩だから、石山が早稲田の奉公が終わったら、あなたのところまで社員にしてみませんか、どうですか」と話したところ、堤オーナーは「石山、日石を退社したのか？それならうちの社員になれ」と言って私を国土計画の社員にして出向のかたちをとってくれました。

その年、法政大学には、あの作新学院の江川卓投手、袴田捕手、植松外野手、佃投手、金光内野手、島本外野手などプロ野球垂涎の選手たちがたくさん入部していました。「早稲田も早いところ、若い素質のある選手を見つけて出し、鍛えないと大変なことになる」と考えた私は全く白紙の状態で、当時部員は百二十名いましたが、その中から素材を見つけ出そうとして自分で全員にノックしました。その中で二年生を五人ほど抜擢しました。「外野手では少し肩が弱い、サイドにコンバートする。卒業

するときには巨人軍の長嶋監督が迎えに来る二塁手にするから」と言ったのが、後に巨人軍のトップバッターで大活躍した松本匡史でした。

監督に就任してスピード野球をチームに植え付け、いきなり春のリーグ戦で優勝しました。続いて行われた大学選手権に出場し、駒沢大学と決勝戦を行い3対1で勝ち、いきなり日本一になってしまいました。

私は原宿の本社にいる堤オーナーのところに行き「お陰様で優勝することができました」「石山、一年目から優勝してしまつたら、あとはやることがないな」と言われました。私はシーズン前後に堤オーナーのところに行き、「今シーズンはこういう戦いになります。このような結果になりました」と報告していました。堤オーナーは

お父さんの康次郎さんから「野球にだけは手を出すな！」と言われていたそうです。

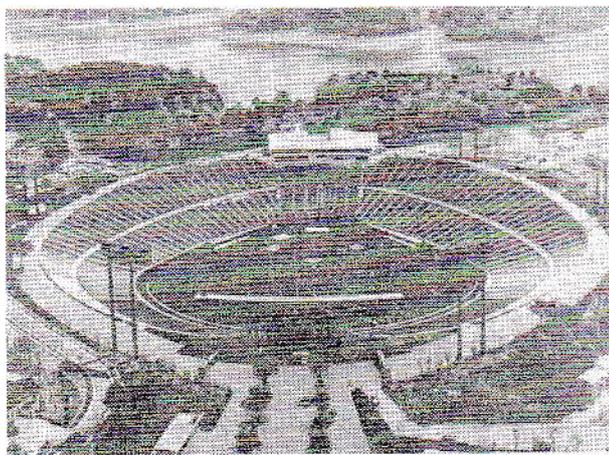
でも私が社員になったために、だんだん野球に興味を持ち、「石山、早稲田から帰ってきたらチームを作れ」と、それが社会人野球のプリンスホテルのチームでした。そこでも平成元年の六十回記念大会の都市対抗をはじめ、全国大会で優勝五回、準優勝五回することができました。

野茂に大リーグ入りを 進めた最初の監督

平成元年は全日本の監督としてプエリトルコで行われた世界大会に行きました。その時、現在大リーグで活躍する野茂英雄、ヤクルトの古田捕手、西武の潮崎、石井浩郎、パンチ佐藤、与田選手たちでした。野茂は高校を出て三年の選手でした。私は野茂に「大リーグに行つてやり



都市対抗で黒獅子杯、世界選手権で野茂と出会い「悪いところを矯正するより、いいところを伸ばすことが大成する選手づくりに繋がる」



当時早稲田理工学部の世界的建築家、池原義郎先生が設計した西武球場も、お客さんが見やすくするために、センターとホームベースの方向を変更、屋根つき、第二球場の基礎も作るようにアドバイスしている

なよ。君なら通用するよ」と言いました。野茂は目を丸くして「僕ですか？通用しますか？」まだ自分の力がどれだけあるか分からない野茂は半信半疑でした。翌年、日本のプロ野球八球団から指名を受けた野茂は抽選で近鉄に入り、投手部門のタイトルを全部獲得して八冠王になりました。私は「私が君に大リーグに行け！という意味が分かったでしょう。私は君が日本のプロ野球よりレベルが上だから、はじめから日本のプロ野球を飛び越えて大リーグに行け！と言ったのだよ」と年賀状に書きました。

その後、野茂は大リーグに入り大活躍しました。日本のマスコミは大挙押し寄せました。その時野茂は「私に一番初めに大リーグに行け！と言ったのはプリン

スホテルの石山監督です」と言ったそうです。プリンスホテルの監督をしていて十年目の年、会社から「西武ライオンズに行ってチームを立て直せ！」。ダイエーの根本陸夫社長から「ダイエーを手伝ってくれ」。巨人軍の長嶋監督からは「巨人軍の生え抜きを作りたから来てほしい」と三球団から誘われました。「生え抜きを育てたい」長嶋監督を助けてやろうと思いい、西武を辞めて巨人軍に入りました。巨人軍のフロントは私に「二軍監督をやっ

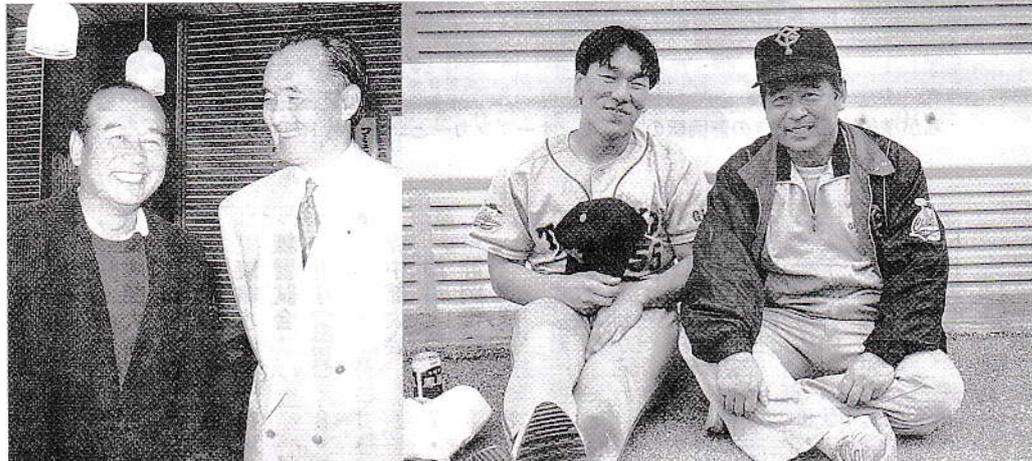
てほしい」と言っていました。長嶋監督は「二軍監督ではもったいない。一軍も二軍も見てもりたい」ということで、編成部長補佐兼二軍統括ディレクターでした。フロントは私に「石山さんが監督をやらないなら、誰がいいですか？」私は「松本匡史がいいでしょう」と言うと「石山さん、松本はまだ若いので無理ですよ。去年までコーチで一番評価が低いのが松本です。一番先に首になるのは松本です」と言われました。「私は選手育成が上手いと言って巨人軍にスカウトされたので

しょう。コーチも育てるから一年だけやらせてみてくれ。それでだめだったら首にしていから」と約束しました。松本は初めて監督をやるのですから私はキャンプからファームの試合全部付いて回り、公式戦でも打順や投手起用もアドバイスしました。イースタンの試合は100試合ありますが、そのイースタンで優勝し、ジュニア選手権でも優勝し日本一になりました。フロントは「石山さん、松本監督はこの一年ですごく成長した。ぜひ一軍の外野守備コーチで欲しい」と言ってきたが、私はつぶされたいと思いい二軍監督に置きました。

選手の名所を伸ばすことで短所を隠していく

当時セリーグの会長さんは川島廣守さん。後にコミッショナーになった人ですが、川島さんと私がラジオ対談をしました。巨人軍のファームを日本一にした石山二軍統括ディレクターというので、そのとき川島さんが「石山さんは選手育成が上手いと言われているが、どのようにするの？」質問しました。「会長さん、私は自分の短所も欠点も直せません。私はこの選手の一歩の長所はどこなのかを見つけ、その長所を伸ばすことで短所を隠していくやり方をしてきました。今、オリックスでバッティングコーチをしている藤井康雄は足も速くないし、守備も良くない。けれどバッティングで彼は4番打者になりました。今年西武の二軍監督になった石井浩郎も足もないし、守備も上手くない。でもバッティングを伸ばすことで、プロ野球の四番バッターになりました。欠点を直すのではなく長所を伸ばした結果です」と答えました。

ジャイアンツをやめ、アマチュア資格を取ったのでOB会長の栗田さんから、「ぜひ静高を指導してほしい」と言われ、5年前から行きました。その時思ったのはピッチャーを見たくても、いつも行ったとき、大会前に肘や肩を壊して投げるのを見たことがありませんでした。調べてみるとたいがい土・日はオープン戦のグラウンドに行くと分かりますが、いつもネット裏はファンがいっぱい見に来ています。そのファンはいつも勝たないと気がすみません。負けると監督はボロクソに言われます。そのため監督は試合では



ジャイアンツの長嶋監督に請われて編成部長にこゝで松井の「投げ方」を矯正、バッティングに関しても適切なアドバイスで世界の打者の育成に一役

エースと二番手を必ず使い勝たにいきます。主力投手を休ませて他の投手を使う余裕がないのです。そのため主力投手は疲労が蓄積して、予選前には故障する原因になっているわけです。投手は週末には必ず投げると思うから、平日は投げ込んで肩を作っていくことができません。

オープン戦はあくまでチームの訓練をするためだから、あまり勝ち負けにこだわらない方がいいわけですね。静高の監督は「夏勝てばいいのだから」という度胸を決めていかないと務まりません。畑田監督は静高OBで「外から見てきていますから、投手を予選では最高の状態で持っていくようにします」と理解しています。

私が講演に行った各地でよく「どうして静岡高校はあれだけの進学校で野球も強いのですか」と聞かれます。「野球学校が甲子園に出てくるのは分かるが、進学校で出てくるのはすごい」と。

静岡が甲子園に出ることで活性化する

昭和三十五年に準優勝して甲子園から帰ってきたとき、まだ新幹線はありませんでした。後援会の使者が浜松まで迎えにきてくれ「静岡駅前は出迎えの人たちがいっぱいいるので、車中でユニフォームに着替えて欲しい」と言われ、監督と部長先生から私と呼ばれ、「どうする」と聞かれ、私は「選手たちと相談してみます」とサインに話しました。「優勝したのならユニフォームでいいけど、準優勝なのだからワイシャツでいいよ」と。そして静岡駅に降りたら駅の屋根まで人が乗り、松坂屋から駅前に黒山の人だかりで「きょうは静岡祭りでもないのに、なんでこんなに人が大勢いるのぞ」思いました。まさか自分たちの出迎えとは思いませんでした。

駅前に五万人の市民が出たということでした。

あとで監督と部長は「何故ユニフォームを着せてパレードさせなかったのだ？」と後援会からお小言をくったそうですが、翌日の新聞で「さすが県下一の進学校！ちょっと活躍すると有頂天になる学校があるが、静岡高校はワイシャツ姿でパレードでした。高校生らしく良い」とお褒めの記事が出ていました。

私はこの時の写真を持っていますので静岡に行き選手たちに見せ、「君たちの時代にも頑張つて市民を熱くしてください。みんなこのように出迎えてくれるよ」と励ましています。

静岡高校が昨年百二十五周年を迎え、「何が何でも甲子園に出なければならぬ」ということでした。OB会長の栗田さんから「ぜひ静岡の百二十五周年で甲子園に出さなければいけないので石山さんコーチに来てくれ」ということで行っていました。69期でクミヤ模型の社長である田宮さんが後援会長をしてくれまして非常にまともになりました。

私がコーチに行くのと田宮さんが後援会の幹部やOB会長、監督、部長を呼んでくれました。一席設けてくれます。そこでプロ野球流で言えばフロント側と現場が一体となってミーティングをします。私はアドバイザ的な役目です。野球の戦いは現場だけでなく、それを支えるバックアップ体制がすごく大事でそれがないと勝てないと思います。

そういう意味で静岡野球部の後援体制は確立しています。だから昨年甲子園に出ることができました。ところが田宮会長が社業が忙しくなり「それでは77期のメンバーにも優秀な人たちがいます。一度顔ぶれを見てください」ということで昨年準決勝、決勝戦が終わってから田宮さんに見ていただきました。そして「ぜひ頼む」ということになりました。現在シャボン化

粧品の川村修社長が後援会長を引き受けることになりました。これからも静岡高校にぜひ甲子園に出て頑張つて欲しいと思います。先ほど司会役の清水さんからも後援会の話がありました。が、本日出席の皆様にもぜひ後援会に入ってください。年会費は五千円・一万円コースがあります。よろしくお願ひします。ご静聴ありがとうございます。



私が準優勝したときの静岡駅の人の波、オープンカーといってもトラックで凱旋

静岡野球部

新チームの戦績

練習試合

静岡市立商 12・2
帝京安積(福島) 15・4
武相(神奈川) 9・8
穴吹(徳島) 10・0

桐蔭(神奈川)

13・13
7・11
3・6

☆中部大会

8月14日から
焼津中央 5・4
焼津水産 11・2

練習試合

近江(滋賀) 8・5
" 1・4

☆中部大会

静岡工業 7・0
静岡学園 8・0
常葉橘 8・4 (決勝)

☆県大会

9月20日から
富士 11・1
東海大翔洋 3・4

練習試合 (2回戦敗退)

浜松商業 9・5
" 9・4
市川(山梨) 2・3

トータル

14勝5敗1分け

平成15年度決算書及び16年度予算書

平成16年7月9日

(収入の部)

(単位：円)

科 目	平成15年度	平成16年度	増 減	摘 要
	決 算 額	予 算 額	△印減少	
年 会 費	1,848,000	1,800,000	△ 48,000	3,000×600名
本 部 助 成 金	800,000	800,000	0	
雑 収 入	205,281	200,000	△ 5,281	会報広告料
前年度繰越金	5,979,769	5,459,991	△519,778	
収 入 合 計	8,833,050	8,259,991	△573,059	

(支出の部)

総 会 費	440,538	500,000	59,462	総会費400,000 会場費100,000
会 議 費	591,432	600,000	8,568	会合費400,000 幹事会費200,000
事 務 費	240,000	240,000	0	
印 刷 費	1,506,773	1,670,000	163,227	会報2回1,600,000 名簿整理70,000
旅 費 交 通 費	123,000	200,000	77,000	
雑 費	71,316	80,000	8,684	雑費50,000 交際費30,000
寄 付 金	40,000	0	△400,000	本部への寄付
消 耗 品	0	150,000	150,000	
支 出 計	3,373,059	3,440,000	66,941	
予 備 費	5,459,991	4,819,991	△640,000	
支 出 合 計	8,833,050	8,259,991	△573,059	
次 年 度 繰 越	5,459,991			



前列、清水会長（右）、児島副会長
後列、野方副会長（右）、浦田副会長

理 顧 監 副 会
事 問 " 事 " 会
長

荒 高 八 秋 仲 吉 垣 清 仲 上 鳥 松 野 浦 児 清
井 橋 牧 山 谷 野 生 水 川 杉 巢 下 方 田 島 水
千 浩 博 卓 尚 雅 信 重 晴 重 彰 男 汪
明 宏 行 好 明 史 敬 尚 正 吉 修 一 人 彰 男 汪
90 87 82 82 81 80 78 77 73 60 89 74 77 71 67 59

大 新 石 田 本 岡 上 村 山
羽 村 川 畑 多 部 出 松 中
章 暢 嘉 秀 英 政 和 貴 博
弘 宏 和 典 一 之 子 彦 司
93 89 87 82 81 81 80 77 73

(数字は入学期)

総会で承認された
静中・静高関東同窓会役員

各期の会員の住所録をPCに登録・管理しておりますのでご利用ください

各期の幹事又はそれに準じる方のご通知があれば、住所録の変更を致しますのでご連絡ください。

担当理事 垣生 尚敬 (78期) TEL 0468-66-2304 (自宅)
E-MAIL yas1habu@poppy.ocn.ne.jp
担当理事 高橋 宏 (87期) TEL 03-3756-5851 (自宅)
E-MAIL hiroshi3.takahashi@toshiba.co.jp FAX 03-3756-5851 (自宅)

静中・静高関東同窓会の年会費は3,000円です。よろしくご協力ください。

会長、ご苦労さんでした

関東同窓会に長年にわたり

尽力いただいた上杉重吉さん (60期)

文章を書くことやリライトするのを得意とする上杉さんだが「さすがに疲れたので今回の執筆は勘弁してください」と原稿依頼に頭を縦にしなかった。とはいえ三十年の歴史を刻む関東同窓会を昭和五十七年から幹事役として支え、会報の編集も担当し、種々面倒をみてきただけに「話すだけならいつでもいいですよ」と愛着ある同窓会のこ

ととなると人一倍力が入り、結局池袋の喫茶店でお話を伺うことになった。「何といっても先輩・同僚・後輩たち多くと、より親しくなり、いろいろ勉強させていただきました」と同窓生の繋がりの強さ、面倒見のよさに感心したという。悩み事の相談から就職の世話や下宿探しまで、互いの人脈を通じて紹介しあってきた。



昨年同窓会会場で講師の村松友祝氏 (75期) と談笑する上杉さん (左)

それもこれも「ふるさとには遠くにおいて思うもの」と静岡という故郷があるのに、わざわざ親元を離れ独立して東京(関東)に居住している共通感が仲間意識を強めていると分析。その気になれば通える距離にあるふるさと静岡、そして母校を見ていられる安堵さがあるという。

「同窓会専用の事務所がないのが何よりの悩みでした。幹事役の仕事場の片隅を借用して、しこしこ業務をこなしていくわけで、その総務課の方の手を借りることも日常茶飯事でした」大雄(山田政光さん)、新日本証券(山崎弘子さん)、野方副会長夫人賀津子さんなど大変世話になったという。

上杉さんの記録簿、几帳面さは人一倍強い。関東同窓会の記録も、大学ノート三冊に総会だけでなく幹部会、役員との打ち合わせなどがびっしり。

昭和六十三年には、同窓会の運営について、静岡本部との確執で絶交になりそうな時期もあった。「いずれにしても魅力ある同窓会の発展と円滑な運営、さらに会員の親睦をより深めるための提案です」なのに、本部側が明確な前向きな態度を示さず、当時の宮澤次郎会長(42期)から「本部と絶交、独立しよう」と過激な意見が出た状況などが

詳しく記載されている。「みんな同窓会のためを思っていることでしたよ」意見の違いを関東・静岡合同小委員会です話し合うことで次第に氷解。現状ではまったく問題なく親睦が図れているという。

したものは、まさに上杉さんの真骨頂。歴史を刻む貴重な資料としてここに掲載する。まだまだお元気な上杉さん、大好きなゴルフや山歩きを楽しみながら、後輩に今まで以上のご指導を賜りたいものである。

(構成・村松貴彦 77期)

総会・懇親会の変遷

回	年	月	日	会場	幹事期	参加者	備考	
1	S	50	6	3	東京会館ロースルーム		340	会長:宮澤次郎
2		51	6	3	東京会館		280	
3		52	6	3	日比谷三井ビル		420	
4		53	6	2	築地すえひろ		340	百年祭10月7日
5		54	6	8	"		280	新卒者招待
6		55	6	20	"		250	
7		56	6	17	"		260	参加学生30名
8		57	6	25	"		280	
9		58	6	24	"		370	学生130名
10		59	6	29	"		360	会費5000円、学生3000円
11		60	6	18	"		300	
12		61	6	27	"		300	会費6000円
13		62	6	5	"		250	
14		63	6	23	"		198	
15	H	1	6	9	"		220	会長:大石巖
16		2	6	8	新日本証券大食堂		260	学生37名、会費5000円、学生無料
17		3	6	21	"		300	学生74名
18		4	6	19	"		300	
19		5	6	18	"		263	学生95名
20		6	6	24	"		204	
21		7	6	23	"		153	会費3000円
22		8	7	12	"		130	
23		9	6	20	"		60	暴風雨
24		10	7	17	"		115	会長:奥沢徹
25		11	6	25	"	77	123	講師:山川静夫、会長:上杉重吉
26		12	6	30	ひょうご倶楽部	78	160	三木卓
27		13	7	14	"	79	130	竹村千鶴子
28		14	7	5	中央大駿河台記念館	80	220	齋藤孝
29		15	7	4	"	81	200	村松友祝、125年祭(11月15日)
30		16	7	9	"	82	183	石山建一

祝 村田吉隆 国務大臣記

79期 上田 尚亮

一九四四年、昭和十九年生まれの79期は今年選歴を迎えました。多くが第一戦を退くなか、村田吉隆氏が国務大臣になりました。国家公安委員会委員長・防災・有事法制担当です。大臣室は三箇所あるそうです。

静中・静高関係では原田昇左右先輩(59期)、柳沢伯夫先輩(70期)、遠山敦子先輩(73期)に続き四人めです。

菊池寛のことは「末は博士か大臣か」、村田氏は大臣になったのです。おめでたいことです。四年前の関東支部の総会に岡山から参加してくれたし、このと



ころテレビに災害担当で顔を出しますから御存知の方もいらっしゃると思います。過日の静岡新聞では高校時代は目立たない生徒だったと紹介されていました。某週刊誌には無名の代議士が大

臣になったと報道されています。京都大学へ行きたい行きたく

と言っていました。西へ行かず東の東京外国語大中国語科に入学しました(英語が苦手)。

四年の時京大法学部に編入し、その後大蔵省に入省。フランス、グルノーブル大学へ留学。修士に。フランス語をマスターする

と英語が得意になったそうです。日中友好条約で北京の日本大使館開設にともない北京へ。小川平四郎大使はじめ大使館のスタッフの信頼を得る。

岡山選挙区の藤井勝志代議士の女婿となる。その後岳父のあと5回連続当選を果たす。

静中・静高出身の大臣は四人とも運輸・大蔵・文部・大蔵と官僚出身です。先輩三人は東京大学です。村田氏は静岡市で生まれ疎開で掛川市に。中学から城内中、静岡高校進学。本人は

中国語を専攻したことを先見の明ありと言っています。確かにその後の流れは中国でありましょ

う。京大へのあこがれがその後の努力の源になったのでしょうか。のんびり屋の村田氏は一所懸命勉強しました。語学のコツを習得しそれが幸運を呼んだと私は思っています。高校時代からいつもにこにこ顔。

シャイで優しい静かな男、身長は高く日本の政治家と正反対。何とか大臣になってくれと思っ

ていましたが、こんなに早くならとは。失礼しました。衆議院に出るとき、友人は大蔵省の方がいいと言ってしまった私。反省しています。

大蔵省が辞表をなかなか受け取ってくれなかった話、沖繩サミットでの活躍、岳父の引退後、一期おいて選挙に出た話などいろいろあります。表裏ない村田氏。正直ものの村田氏。その世界は一寸先は闇だそうですね。ご用心。御幸運をお祈りしています。

(追記) 村田氏は水害、新潟県中越地震など休日返上で頑張っているそうです。今日十一月七日(日)午前九時からNHKテレビに出ていました。次のステップにむけて皆様のご支援、ご指導よろしく願います。

★各期幹事一覧表★

幹事の変更の場合は事務局までお知らせください。特に幹事未定の期は至急選出して連絡ください。

- | | |
|--|----------------|
| 45: 鈴木弥門 | 72: 浦田 彰 |
| 46: 丸杉孝之助 | 73: 桜井亮介・深田 均 |
| 49: 菅沼 栄・杉本久敏 | 74: 山中博司・山梨由記 |
| 50: 丸尾文治 | 75: 後藤孝子 |
| 51: 原崎郁平 | 76: 佐藤藤司・藤原經史 |
| 52: 服部雅雄・廣川 聡 | 77: 今田 肇・佐藤修二 |
| 54: 安東哲夫 | 78: 井出辰一郎 |
| 55: 相川富士雄・法月重雄 | 79: 酒井孝太郎・鈴木 浩 |
| 56: 清水逸郎・萩原達雄 | 80: 清水雅尚・野方重人 |
| 57: 岩井平一郎・影島利邦 | 81: 村松貴彦 |
| 59: 狩野和夫・朝比奈正二 | 82: 伊藤洋之・垣生尚敬 |
| 60: 堤 崇・山本雅之助 | 83: 上田尚敬 |
| 61: 大石次男 | 84: 吉野卓史・上出和子 |
| 62: 63: 吉川隆士・大石一輔 | 85: 本多英一・中沢幸子 |
| 64: 65: 野沢正憲 | 86: 磯谷和子・川崎久美子 |
| 66: 田中俊夫 | 87: 八牧浩行・秋山 好 |
| 67: 朝比奈正三・小杉 弘 | 88: 田畑秀典 |
| 68: 鈴木敏行 | 89: 山本雅敏 |
| 69: 荒谷じつ子・吉崎英輔 | 90: 池田幸司・深津俊郎 |
| 70: 宮崎吉英・山本龍男 | 91: 成岡和美・井出慎吾 |
| 71: 石山 博・北村 孝 | 92: 薬科名雄・石川嘉和 |
| 72: 関 哲夫 | 93: 高橋 宏 |
| 73: 海野幸雄・後藤弘枝 | 94: 鳥巢 修・新村暢宏 |
| 74: 75: 76: 77: 78: 79: 80: 81: 82: 83: 84: 85: 86: 87: 88: 89: 90: 91: 92: 93: 94: 95: 96: 97: 98: 99: 100: | 96: 奥野智人 |
| 101: 小泉輝武・開発啓之 | 102: 荒井千明・米澤宣行 |
| 103: 山野直文 | 103: 岡村幸彦・大羽章弘 |
| 104: 松野敦子 | 104: 松野敦子 |
| 105: 奥野智人 | 105: 奥野智人 |
| 106: 小泉輝武・開発啓之 | 106: 小泉輝武・開発啓之 |

☆同期会のチャンスも作って、楽しい集いをしてください。

☆幹事未定の期は、至急選出してご連絡ください。

元治元年の「江ノ島会」

71期 浦田 彰

毎年九月の第一日曜日は「江の島会」の日です。今年は九月五日、いつものように参道橋を渡って「恵比寿屋」に集まった同窓生は四十九人、盛会でした。仄聞ですが「江の島会」が始まったのは昭和二十一年とか。ほとんど歴史上の出来事です。ところが！何と！「江の島会」はもともと昔からあった、という証拠の古文書が発見されたというのです。幕末は元治元年、かの新撰組が京都の町を闊歩していた頃、毎年決まった日に相州・江ノ島に集まる怪しげな集団を探索せよ、という小田原藩の命令書と探索に当たった隠密の報告書です。

なお、この古文書の出処については筆者のみの知るところです。

「江ノ島会」探索ノ事

此度、訴人アリ

毎年キマツテ 南蛮曆ニテ長月ノ第一休息日ニ相模国ハ 江ノ島辨財天境内「恵比寿屋」ナル宿坊ニ群レ集ウ者共アリ 何ヤラ怪シゲナル儀典ノ後 暮六頃マデ 饗宴ニ打チ興ジ 後 散ズルトイフコノ者共 慶安ノ世ヲ騒ガセシ由比正雪ノ残党ナカラン哉 ハタマ



ノ刻ヨリ三々五々 参道橋ヲ渡リテ米亭スル者共アリ老若合せ数オヨソ五十 横丁隠居風アリ 大店番頭風アリ 諸藩江戸留守居役風アリ 薬剤師風アリ 大工棟梁風アリ 植木屋親方風アリ 中ニ

八人程ノ女人 御殿女中風 商家新造風 辰巳芸者風 武家娘風 イズレモ色香漂ヒ見眉目麗シク……

風体ミルニ皆々怪シキ筋ナシ 顔色陽明ニシテ 声音マタ晴朗ナリ

時来リテ大広間ニ参集ス マズ客人トオボシキ儒者風立チテ共ニ学ビシ学舎ニツイテノ諸事ヲ叙ス

次イデ学窓元締立チテ学舎事始ヨリ百二十五年ヲ閲セシ盛運ヲ壽グ 次イデ会計ノ事ナドアリ 締メハ町内世話役風謝辞ヲ述ブル

察スルニ共者駿河ノ国府中ニソノ名モ聞エシ学問所ニ志ヲ遂ゲシ同床同夢ノ者共ト覚ユ

座ヲ宴席ニ移ス 爾来日暮ルルマデ 飲ム程ニ酔ウ程ニ談論風発 高歌放吟 和氣藹々 越シ方行ク末 説キ来リ説キ去リ 時ヲ経ルヲ知ラズ 懐陰ヨリ傾聴スルニ御公儀軋覆ノ謀事ナドハ無論 諸法度并ニ諸御 触書ヘノ異論モコレ無ク 来年ハ九月四日ナリナドト声高ニ声掛合イツツ散ジテ終ニス

真ニ天下泰平 訴状アリトイエドモ 御懸念ニ及バズト思料スル 次第二御座候

探索方保土ヶ谷宿預カリ同心 岩井長右衛門

元治元年極月六日

夕天草原城ヨリ逃レ世ヲ忍ブ切支丹伴天連ノ残党ナカラン哉 去ンヌル水無月五日 京洛・池田屋ニ集結セシ攘夷浮浪ノ徒ノ先例モアリ 別シテ江ノ島ハ 黒船来航ノ浦賀沖ニモ近キ地ナレバ不逞ノ異人徘徊スルトモ聞ユ イズレニシテモ 御公儀ニ対シ謀反ヲ企テル輩ト疑ウベキ筋アリ 宜シク御詮議アルベシ

クダンノ如キ訴状 真ナレバ由々シキ事態ナリ 其方儀「恵比寿屋」ニ深ク潜ミ 逃レナキ証拠ヲ押サエルベシ キット探索方申シ付ケルモノ也

小田原藩目付 黒田代田衛門秀幸 花押

元治元年文月朔日

御下命アリシ

「江ノ島会」探索ノ事

ソレガシ陽曆八月朔日ヨリ「恵比寿屋」方下僕ニ身ヲヤツシクダシノ日ヲ待ツ 陽曆九月五日 午



56期同期会 校歌を四番まで

清水 逸郎

平成十六年の関東地区同期会は、十月十九日（火）十三時から三時間、公務員共済の「ホテル東京」開かれた。出席者は川崎博、小菅正紀、清水逸郎、成田六郎、西脇光夫、萩原達雄、牧大勝三の七名。

同期の全員が八十歳を越え、昨年の同期会のあと、十二月には北村甫君が亡くなり、今年になって一月には松田一郎君、二月には横森桂君、さらに四月には伊藤卓爾君が亡くなり、この一年で四名もの同期会員を失った。まことに悲しい。彼らのご冥福を祈って黙祷を捧げた。懇談会は、萩原君の挨拶と彼の音頭による乾杯で始まった。何と言っても話題の中心は身体のことになる。それぞれの問題点を語り、解決策について話し合った。また、思い出が多く語られたが、中でも萩原君が終戦の前後に、南方地域で軍の輸送機を操縦していて九死に一生を得たときの話は感銘深いものがあった。牧大君は、定年退職してから篆刻に志し、苦勞を重ねて上達した。

次に校歌について話し合った。我々は静中生徒のとき、校歌を



四番まで高らかに歌った。それが最近が一番しか歌われていないのは残念、との話し合いだが以前から続いていた。

校歌は、一番で人生の理想を掲げ、二番以下でそれを実現する志を述べているのに、一番だけでは中途半端なことになってしまう。それにもかかわらず、一番だけしか歌わないのは、歌詞に遠慮してのことであろうか。考えてみるに二番、三番には問題はない。四番については憲法が改正された現在、もとのままでは歌いにくい。そこで一部を読み替えて、

御国の柱礎と

なりし祖先の後継ぎて

『我らが誇る日の本の光』を

四方に輝かせ

としたらどうだろうか」と提案

したところ、この春の静岡で開かれた同期会でも、出席者全員の賛同が得られた。

こうして会は終わりに近づき、次回のことを相談した。出席者は年々少なくなっているけれども、希望者がいる限り続けるということになり、来年も十月の第三火曜日（十八日）に同じ場所で開催することを約束し、記念写真を撮って散会した。

砂漠、テロ、砂時計

60期 山本 雅之助

子供のころからなんとなく古いものに興味があり、古代の「遺跡」の話などは熱心に聞き、想像を逞しくしたものであった。中でも「エジプトのピラミッド」は最高に興味を引いたものであった。

ある時、親父に「考古学をやりたい」と言ったら「バカなことを言うな。考古学なんていうものは大金持ちの倅のやるものだ」と一笑に付されたものであった。言われてみれば、なるほど学者向きの「アタマ」ではないし、「努力する」事も並以下となれば諦めるのも早かった。

それから六十有余年、平凡な会社勤めの道を選んだが、時は高度成長時代の事として、「クビ」

だの「リストラ」だのと今風の騒ぎもなく、バブルの破裂は多少心配したが、大過なく終わることができた。

いつの頃からか、W大のY教授のエジプト遺跡発掘のニュースが、一種のブームのようにテレビ放映され、忘れかけていたエジプトに対する郷愁にも似た憧れを再び感じるようになった。このまま歳をとり、行かれなくなるのではないかと心配したが、九四年二月、漸くエジプトを訪ねる機会を得た。

この当時、すでにイスラム反政府ゲリラのテロ事件は頻発しており、ツアーが中止にならないのが不思議なくらいであった。翌年には日本大使館から陸路移動は止めるよう警告が出たのであった。現地では添乗員もガイドも危険を感じさせる素振りも見せなかった。

カイロから南下するに従い緊張感が増し、観光バスの前後には自動小銃を持った警官六人が乗り込んだトラックに護られ、ナイル川沿いの一本道をフルスピードで突っ走った。結局ゲリラ多発地区（アシュート アビドス デンデラ）は中止し、比較的安全なルクソール（ここも後年テロ事件が起き、日本人を含む数十人が死傷した）以南の遺跡を見ながらアスワンに向かっ

た。

現地ガイドが「エジプトではアスワンの砂が一番きれい」と言うので、思い出し一袋採取し、持ち帰った。帰国後、この砂で砂時計を作ろうと百貨店や販売店に問い合わせたが判らず仕舞いで、仕方なく机の引き出しに入れたままいつか忘れていた。

一昨年の六月、S新聞に「K硝子工芸でオーダーの砂時計を作る」との記事を見て、早速出かけた。店の主人が言うには「筆筒型の砂時計を作れるのは全国で三人しかいない。砂は採取した場所によって質が違うため、それに合うガラス容器を三回以上試作する。フレームはアメリカ産のパドックという木を使用し、六十分計を作る。製作期間は一カ月」とのことですぐ発注。

八月の初め完成。受け取りの日には朝から三十度を越す猛暑で灼熱の砂漠の砂で作った砂時計完成に相応しい暑い一日であった。ガラス器の中をサラサラと流れ落ちる砂を見ると、過ぎ去ったわが人生が浮かんでくるのであった。

（付記）旅行社のカタログを見ると、エジプトは二〇〇四年秋から全陸路移動できるようになったそうである。

じっくり語り合う会

59期 朝比奈 正二

恒例の秋季同期会をさる十月二十一日(23号台風関東通過の翌日)八重洲の「北海道」で開きました。この会は毎年二回、四月と十月、いずれも第三木曜日に開催することになっています。会はず朝比奈の司会、開会の辞に始まり、清水汪君の音頭で乾杯、続いて懇談に入り、楽しいひと時を過ごすことができました。

今回の出席者は、写真の右より、小花敏郎、橋爪壯、清水汪、青木豊、狩野和男君らと朝比奈正二の六人でした。なお、田沢義彦、長谷川邦三の両君はいずれも出席予定でしたが、台風の影響を受けて欠席を余儀なくされました。

このほか、高橋裕君は水資源



学会の国際活動で海外に、また会合が重なり、欠席する諸兄が多く、前回、前々回の出席者数の半分以上になりましたが、反面それなりにじっくり語り合うことができました。

なお、静中・静高関東同期の59期幹事である青木静男、原淳の両君が目下病気療養中のため、後任として、狩野和男君と朝比奈正二の二人が就任することになりました。

日章旗

54期 安東 哲夫

その日は国民の祝日であるのに、東京では何処を探しても国旗が掲揚されているのを見る事ができませんでした。そして国民の大部分が、この有様に奇異を感じていないように思われました。

総務庁をはじめ、都庁、私の住む日野市役所、孫の通う小学校等、国民の祝日並みに国旗に対する無関心ぶりは驚くばかりです。

したがって小学校は国民の祝日の意義を知らず、ただ休日を楽しんでおり、国民の祝日の意義を教えようとしている教師は、校長をはじめ殆ど皆無であるのが現状のようです。私はその徹底ぶりに唖然としました。

ただ誇りある国作りを目指す「日本会議」では「国民の祝日に国旗を揚げよう」と、日の丸をデザインした切手を発行しました。私はこの切手を直ちに購入、私の封書には全てこの切手を貼っています。

私は昭和三年に長野県飯田小学校に入学しましたが、この学校では「国民の祝日」には生徒全員、本校の体育館に集い、国歌を三部合唱で歌いました。三

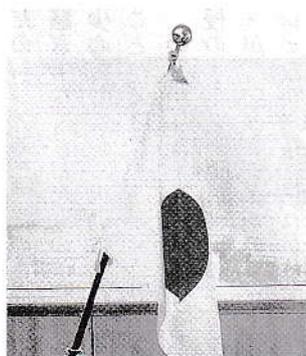
部合唱の国歌は体育館に響き渡り、私の小さな胸を打ったその時の感動は今も忘れることはできません。

私はその後、昭和七年に静岡に移り、以来三十年静岡に住みましたが、会社(勝呂組)の合併で東京住まいになり、四十年が過ぎました。

しかし静岡には一番町小学校、静中、陸軍経理学校のクラス会、会社のOB会があり、年四回の来静を楽しみにしてきましたが、小学校のクラス会は、本年をもって解散となり、十月十六日は会社のOB会で来静、勝呂組の以前の部下と積もる話を語り、となり、誠に至福の夜を持つことができました。

宿はホテル・アソシエにとり、翌朝二階のレストランで朝食をとりながらふと前を見ると、何と静岡駅ビル屋上に真新しい日章旗が高々と翻っているではありませんか。

広い秋の空に生える日章旗と静岡。私の心も晴れ渡り、ホテ



ルをチェックアウトした私は、直ちにビルの屋上の事務所に総務部長を訪い、私の感動を伝え、謝辞を述べたのでした。

十月二十三日は静岡中の第5期生、十二名があなごやに集い、小津安二郎の映画に度々出てきた笠智衆さんを中心とした中学のクラスメイトのように、少年に帰っての話の尽きぬ夜となつたわけですが、私はここでも静岡駅頭の日章旗を讃えずにはおられませんでした。

「教育基本法」改正の声も全国的に拡がりつつありますが、日教組の現状よりして、これが実現は容易なことではないと思われまふ。しかし国を興すも亡すも国民意識の如何にかかっております。

私は生ある限り、次代を背負うべき青少年に語り伝えなければならぬことを譲り聞かせるべく、心に誓っております。

「義の国日本」こそが、これからの世界平和の核とならなければならぬとの私の論旨に真摯に耳を傾けようとする青少年は決して少なくなく、且つ彼らの礼節を弁えた姿勢に接し、誠に頼もしく喜ばしく感ずるとともに、時間はかかりますが、やがて戦前のように、国民の祝日には、各戸に日章旗の翻る日の来ることを祈念するものであります。

61期同期会 二丁目の町名由来に 話題沸騰

声沢 博樹

二年毎に開催されるのが61期の関東地区同期会は、大石次男幹事のご配慮により、例年と同様、今年も九月二十八日の十二時三十分から銀座キャピタルホテル新館で行われた。

今年の参加者は、関東地区から十八名、静岡から望月良君が出席され、総勢十九名であった。

61期は来年ほとんどの者が喜寿を迎えることになるが、体調不良等によって、出席者が減少するのは淋しいかぎりであり、一日も早い回復を願う次第である。

定刻になり幹事の坪田昭三君からの心暖まる開会の挨拶があり、続いて平成十四年以降亡くなられた松永典昭君・徳永重遠君・竹迫友一君の諸兄のご冥福を祈って一分間の黙祷を捧げる。

乾杯後は飲みながら、食べながら暫くぶりの再会にたちまき雰囲気盛り上がり、話はずみ、話題も身近な健康談義等々から、在学中の思い出の数々、



消息不明の級友の安否確認、さらには勤労働員中のさまざまなエピソードまで、時には静岡弁も飛び交う有様は、全員ながら六十年前の昔にかえった静中時代を思い出させるものでした。

特にその昔の二丁目の町名由

来に端を発した同町についての話題には、同町周辺からのかつての通学者数名からの興味ある解説や、往見聞が披露され、往時の学校では絶対に教えられなかった特別授業まで行われる始末となった。

会もそろそろ終り近くになった午後三時過ぎ、天の声による次回幹事の指名、出席者全員の写真撮影のあと、校歌・岳南健児を二番まで声高らかに合唱して幕が下り、今年の同期会もめでたくお開きとなったが、かつての青春の日を思い出す貴重な一日であった。

次回も是非皆元気で再会したいものである。

「団塊の世代」が来年の 関東同窓会を手伝います

83期 久野 淑子

来年の総会のお手伝い委員は、今年の82期に続き、83期が勤めることになりました。

私たち83期は「団塊の世代」であり高校時代は東京オリンピックを経験し、大学時代は、大学闘争のピークを経験した全共闘の世代でもあります。

運動に参加した者も、参加しなかった者も、国家・社会のあり方や、生き方について思い悩み、現在もその問題を引きずりながら生活しているまじめな世代です。

ひと昔前の定年である五十五歳を超え、ある者は仕事に追われ、ある者は一念奮起して新しい仕事にチャレンジし、そしてある者は趣味の世界に生きようとし、それぞれ新しい生き方を模索しています。

私たち83期生は在学中に甲子園出場を二回経験しています。静岡高校の旗の下に集まり、同窓生とともに校歌・逍遙歌を歌うことが、何よりの元気付けになっています。

今年の関東同窓会の盛り上げりを引き継ぎ、来年は我が期

責任において、皆様のご支援をいただき、故郷と青春時代の風を感じられる支部総会にしたいと思っております。先輩・後輩諸氏、そして同期の皆さん、ぜひご協力くださるようお願い申し上げます。

個人的なことではありませんが、最近はこの会の準備のため、先輩たちと触れ合う機会が増え、静岡・静岡の歴史を実感し、私自身も励まされております。

*各期の会員の住所録をパソコンに登録、管理しておりますのでご利用ください。各期の幹事またはそれに準ずる会員からのご依頼がございましたら、その期の住所録をコピーしてFAX送信、またはEメール送信が可能です。

*会員増強委員の垣生(はぶ)尚敬あて、TEL0468・66・2304(自宅)、あるいは事務局へ連絡ください。

*関東同窓会、本部同窓会でもホームページを開設しております。期日を決めて新情報を掲載しているわけではありませんが、適宜新情報を掲げています。たまにはご覧ください。メールアドレスは以下の通り。

http://kanto.shizuoka.co

★静中・静岡関東同窓会は、現在約三千二百人の会員を数えています。出入りが多くあります。移動したときは、すみやかに事務局に連絡ください。また会員の提出金で運営されています。年間3千円です。皆さんのご協力お願いいたします。

同期の集い

「病気のJUN」

健康のJUNは話々々

いっぺん、いっぺんの場所

64期 遠藤 栄

静中・静高関東64期会はいつもの日の七月七日、いつもの場所、山手線田町駅から徒歩五分の「道灌かがり」で開かれた。七月七日は恒例で、私が初めて出席したときもこの日だった。年始に手帳を買うと、まずこの日とところに同期会と予定を書き込んでおく。

開会には少し早いと思って会場を覗いたら、もう八割がた来ていた。いつもと少し雰囲気が違うと直感的に感じたが、そのはずで、静岡から五人も顔を出してくれたという。関東の会員なら大体顔がわかるのだが、久しぶりのことで（人によっては卒業以来の者もいて）、静岡からの出席者の名前と顔がなかなか思い出せない。

「お前、誰だっけ」から始まって、名乗りを上げてはまだ分からず、「二年の時の担任は？」、「二年は？」などと言葉を交わしていくうちに、老顔の向こうに童顔が浮かんでくるから、同期とは思えないものだ。

さらに珍客が二人。69期の松

島玲子さん。彼女は、静岡高校に女子の入学がはじまって二年目の生徒で、関東64期会によく出席してくれる、いわば準会員といったところ。

もう一人は、陸上自衛隊一佐の新村暢宏君、89期の彼は、母堂が我々同期の佐野旭、岩本吉雄、塚本光彦各君と同級生だったという我々の二世世代だ。古希を過ぎた同期の中に、現役世代の若々しい雰囲気を持ってきてくれた。

定刻より少し遅れて開会、まずは宴会に先立って記念写真の撮影。ここは専門家の渡辺靖君の指示に従って整列。

数年前までは、渡辺素男君の軽妙な司会で進行していくのが恒例であったが、幽冥境を異にしてさびしい。佐藤満君から晩年の様子が報告された。

司会の佐野旭君の指名で、静岡から久しぶりに（おそらくは初めて）参加した小柳明君が乾杯の音頭をとる。とにかく話したいことが山ほどたまっているらし



く、なかなかコップに口をつけるところまでいかない。たまりかねた会場から「乾杯」の大きな声が飛んで、ようやくすっきり泡の消えたビールで乾杯、開宴。司会の佐野君から「病気の」と、健康のことは話をしないと、健康のことは話をしないと、持ち時間は二分」と釘を刺されて、全員の近況報告が始まった。こうした宴会ではありがちなことだが、酒が入ってしまうと話してもそっこのけで、あちこちで久闊を叙する話の輪ができるのが通例。しかし有難いことに

67期入学六十周年記念同期会へのお誘い

64期会では、私語が始まると「おい、話を聞こうや！」と制止の声が飛んで、結局は全員が全員の話に耳を傾けることのできた。いつまでたっても終わりそうにもないところを、校歌斉唱で散会となった。また来年の七月七日を楽しみに。

日時 平成十七年四月十六日(土)

場所 三時半 母校集合 印高館見学
十五時半 懇親会 浮月楼
静岡市紺屋町十一
(電)0541-2521031

会費 一三、〇〇〇円(含字真代)

卒業四十周年は、平成三年九月二十八日。四十五周年は、同八年九月十五日。五十年は、同十三年四月。そして、母校創立百二十五周年同期会は、同十五年十月十五日開催された。これまで節目毎に開催してきた記念同期会。今回は既に二年前より理由として計画をたて、重なる節目も忘れ、とにかく集い、大いに楽しく語り合い、盃を交わしてさらなる健康の活力にしよう。一人ひとりの健康の活力にしよう。お待ちしています。当日、元気で貴兄とお会いするのを楽しみにしています。

(小杉 弘)

有意義な会だし、

落語の会より面白い

『七夕の会』

64期 野澤 正憲

七夕(たなばた)の会とは、女学校のクラス会ではない。七月七日、天の川に隔てられた彦星と織姫が年に一度会うという伝説にちなんで、64期首都在住者が七夕の日、一同に会して談論風発会を催すのである。

この会は弁護士を開業してまだ日の浅かった名波倉四郎君が音頭を取り、野澤正憲君・岩本吉雄君の賛同を得て、静中64期京浜地区の会として昭和三十三年七月七日、新宿の聚楽で発足した。

爾来四十年、場所は変わっても連綿として続いている。最初は酒食をともにしながら「近況報告会」といった普通のクラス会の形式をとっていたのを、「息子・娘の伴侶を求める」「最近の若者を罵倒する」「私の趣味」「私の健康法」「世相から感ずること」等、テーマを決めての意見発表会としたら、これが大変な好評を呼び、熱気むんむんの会となっている。名波幹事長から「口下手の人も多いようなので、渡辺君から

各自について、ユーモア溢れる紹介をして和やかな愉快な発言を引き出してくれ」という注文で「サーカスはピエロ、芝居狂言も狂言師で決まるように64期浜会も司会者で決まる」なんて、調子に乗って司会者の大役を引き受けたら、最近議論客が多く、「お前は引っ込んでいろ」という声もかかったりして顔色ない始末である。

現在はJ R 田町駅芝浦口「道灌かがり」で行われているが、店の人が「年齢の割にはたくさん呑むので驚いている」と言っているから、馬食はないが鯨飲の法のようなのである。

この会には、昭和十八年に入学したものの、途中疎開等で他校へ転向した者も、逆に朝鮮・満州等の外地からの転入者もいる裾野の広い会である。電車に飛び込み自殺という悲惨な最期を遂げた静岡商業の好投手、大原君も「こんな有意義な会はない」と言って死ぬまで毎年欠かさず出席していた。69期の松島嬢のように「落語の会より面白い。毎年是非出席させて」と言う特別会員もいる。

出身地が静岡市という土地柄、七夕の会員は、徳川慶喜駿府移封の際、江戸から随伴した旗本御家人の子孫が多い。

靖国神社が世間を騒がしている或る年、七夕の会で益頭尚文君が立ち上がって「皆さん靖国神社に祀られている軍人軍属は、日清・日露の戦役以来の戦死者でなく、鳥羽伏見の戦以来の薩長土肥の戦死者という事実を知っていますか」と問いかけた。

「戦乱に倒れた日本国民と政府は言っても、北越戦争の河合継之助や会津の戦の白虎隊員は祀られていない。いわんや戦災で死亡した人は軍人でないとして祀っていない。その代わり東条英機や土肥原・松井といった東京裁判の戦犯者は祀っている。靖国神社は、藩閥政治に代表される天皇制護持体制の仕掛けであるし、薩長土肥の戦死者からという事実から、靖国の矛盾と欺瞞は露呈されている」趣旨の発言は、未だ私の脳裏から離れていない。

益頭君の曾祖父は、徳川幕府請役益頭駿次郎で、この人は一八六二年の竹下野守遣欧使節団の一員であり、使節団は江戸・大阪・兵庫・新潟の開市・開港の延期をヨーロッパに認めさせることを目的としていた。福沢諭吉・福沢源一郎(桜痴)もこの一行に加わっているし、帰朝後、福沢が刊行した幕末のベストセラー「西洋事情」はこの訪欧の際の見聞にもとづいて書か

れたものだが、益頭駿次郎は「欧州記」を残している。この一行の業績には東大教授だった芳賀徹著「大君の使節」(中公新書)に詳しく述べられている。

同期会に出席して

昔のガキ達と駄弁ろう

「同期会なんて所詮『田舎中学』の馬鹿たちが集まって、昔話に花を咲かせ傷を舐めあう『後ろ向きの会』だ」と言って、絶対出席しない人もいる。まあそれも各自の自由でよろしいでしょう。しかし、私に言わせれば「小さい、小さい、頑張ったってもうあと何年生きられるか。肩肘張らないでリラックスして自然に生きよう。たまには童心に返って昔のガキ達と思いつきり駄弁るのも一興である。」

私たちは戦中・戦後ただ生きるために一生懸命働いてきた。気がついた時は、リストラで会社を追われ、女房子供も冷たい顔で離れている。こんな時「七夕の会」へ出席して、思う存分政見発表する。またオリジナルなユニークな友人の話が聞ける。楽しきかな人生である。

それにしても、毎年会員があるの世に旅立っていく報を聞くのが一番淋しい。「静岡の会はつまらないから出席したくない。東京の会で渡辺節の司会を聞く

のは最高の楽しみ」とヨイショしてくれ、毎年糖尿病の持病を押して新幹線で上京してくれた山下啓也君も昨日亡くなったという。ご冥福祈ります。

十年ほど前になりますが、原田君が死亡した時、弔問した増田政雄君に奥様から「主人はポールベアリングの会社を経営していました。七夕の会へ出席するのを生きがいにしていました。会に出席して皆様の奮闘ぶりを聞き『皆一生懸命生きています。ボクも負けずに頑張って生きていく』というのが口癖でした。」

原田君は咽頭癌を病み、言葉を失っても「皆のご意見を聞くだけでいい」と言って会合の隅の席に座っていた。「幹事さんに感謝申し上げます」の原田君の奥様の言葉は、全会員を代表する者として、改めて名波・野澤・岩本の三君に呈します。

七月七日は七夕の日であるが、昭和十二年、私たちが小学校に入学して間もなくこの日、盧溝橋事件が起こり、これが発端になって日中戦争・太平洋戦争と拡大していった因縁の日でもある。平和の有難味を噛みしめながら、次の七夕の会が今から楽しみである。

(この文は一部割愛してあります)

今年の「第73期」 同窓会の顛末記

73期 深澤 靖男

新年早々、職場の電話が鳴る。聞けば、静岡同期の彼。「おめでとう、今年の関東同期会の幹事ずら、準備頼むぞ」。関東に居ても彼は静岡弁。十月に開催予定を立てているのに、気が早い奴がいるものだ。我ら73期は毎年関東地区の同期会を開催しており、今年は「鈴木（豊）・池谷・深澤」の三名が持ち回りの幹事を担当。

かくして秋晴れの十月十五日（金）に「御殿山ヒルズ・ガーデンレストラン八つ山」を借り切った開催となった。同期生四十六名が参集。幹事の一人である自分で感心するのも憚れるが、関東地区在住者一三六名のうち、連絡がついた者は、最終的に百三十名とは凄い。会場は池ヶ谷君の馴染みで、破格の待遇。

懇親会は鈴木豊君の司会で進行。関東地区同期会長・山中博司君の挨拶、関東同期物故者、古井・小野田・児玉三君への黙祷、元応援部の山梨由紀君の音頭による校歌斉唱と進み、中西英一君の乾杯で宴の幕が開いた。遠く静岡から特別参加の新家・渋谷両嬢と後藤嬢の女性三名が

華を添える。会場から戴いた差し入れ品「ジャンパン」を始めとして飲み放題。

一年振りに会う者、また時々顔を合わせている者もいるが、懇談の輪があちこちに見える。

みんなの顔が赤らみ、少し酔いが廻ってきた頃を見計らって、例により、久しぶりに参加の諸君からの近況報告。歩んできた人生経験、仕事のこと、孫のこと、旅行のこと、ゴルフのこと、ボランティアのこと、そして交通事故のことなど、次々と発言が続く。

早や六十五歳を超え、そろそろ健康も気になってくる世代、年金の話、そして親の介護の話など、あとの話題はどうしてもそちらに向く。それでも過ぎし日の学生時代に帰り自慢話、思い出話など元気な話も弾む。

「そういえば渋谷（国崎）さんは、なんと袴をはいて通学していたな」などという突飛もない話も飛び出る。

窓の外に眼を移せば、都会の喧騒とは無縁の、初秋のお庭の静かな風情。そんな静寂を愛でながら、歳を感じさせないほど元気に無礼講。みんな美酒に酔い、飲み物も食べ物もどんどんなくなり、ピッチが早い。また毎年お願している加藤元彦君には、今年もカメラマンになっ

て戴き、集合写真やスナップ写真の撮影をお願いしており、あちこちでフラッシュが眩しい。そんなことをしているうちに、予定した二時間はあっという間に

過ぎ、早や閉会の時間をかなりオーバーしている。全員で肩を組んで「逍遙歌」の合唱、そして「中締め」は深澤の発声で、元気に高らかに「三本締め」。



静岡高校73期関東同期会
平成16年10月15日 於 御殿山ガーデン

来年の再開を期して、三々五々都会の巷に散っていった夜でした。

ちよっと一杯

黒はんぺんのある居酒屋

J R 恵比寿駅近く

静岡の黒はんぺんは、我ら静岡人には忘れられない味である。この黒はんぺんを肴にして呑む良いお店がある。女将は静岡精華高校卒である。当たり前のことだが、静岡から黒はんぺんを取り寄せている。

まず生で食べたい。静岡のわさびがあれば尚良い。焼いてよし、フライでも更に良い。懐かしい味わいである。ごく

のある味である。酒もすすみ、話も咲きます。静岡風おでんも代表的なメニューです。

居酒屋の名前は「お氣がる亭 さざんか」。場所はJR恵比寿駅西口から徒歩一分、目の前の右手前に大きなスカイエビスビルがあり、そこを左折して隣の小さな三恵ビルの四階。屋上に大きくて赤い「さざんか」の看板がある。一階の焼肉屋が目印である。☎03・3444・3302（紹介者・小長井勇・78期）
◆あなたが通う喫茶店・居酒屋・スナックなど、静岡とゆかりのあるお店紹介ください。適宜掲載していきます。◆

64ゴルフ会

赤星四郎設計ゴルフ場で

苦戦の連続

佐野 旭

去る四月二十七日、大雨・洪水・暴風の警報三役(厄)揃い踏みのため延期となった第三十九回関東静岡合同ゴルフ会は、一ヶ月後の五月二十七日、富士CCで開催されました。

この日は快晴無風、絶好のゴルフ日和でしたが、何せこはゴルフコース設計者として名声をはせた赤星四郎氏快心の作といわれ、昭和三十三年にオープンした手造りの難コース。「コースの風格」が我々アマチュアおじさんを拒んでいるかの感があります。

全員が苦戦を強いられる中、終始手堅くまとめた清水照彦先輩がグロス94、ネット84で見事優勝。準優勝は野沢正憲君のネット84、第三位は漆畑輝夫君、ネット85、と上位は大接戦。

ベスグロはゴルフの虫、風間政彦君の91、NPは鈴木高保君、井上公司君、渡辺進式君、小川哲司君、B Bは石原良昭君でした。

第四十回秋の大会は、十月二十六日同じく富士CCにて15名が参加。当会始まって以来初の

雨中の熱(冷)戦となりました。優勝は小川哲司君、グロス114、ネット75で二度目の優勝。「考えてもいかなかった。ハンデに恵まれた優勝で、キャディの言うことを聞けばこうなる」と勝利の弁。

準優勝は漆畑輝夫君、グロス114、ネット80、「もともと上位入賞なんて考えていない。飲めればよし、とと思って参加している」、これで終わらぬようホドホドに練習するつもり」と挨拶。日頃から「飲んで、しゃべって、楽しめれば極楽」と言っていた言葉通りの楽しい準優勝でした。

第三位は稲森照男君、前回より6打も多く叩く苦戦振りでしたが、95でベスグロとNP二つを獲得。その他のNPは村上喜代二君(二つ)と永田進一君。渡辺進式君が「やった!」と思っただし、ショットホールは、何れも後続組にNPをさらわれ残念。彼はこのコースが苦手なのか前回に続き三桁を叩き大いに不満のゴルフ。

栄えあるB Bは佐野旭、十年振りの奥様孝行賞でした。「グリーンが難しい!」「グリーンだけじゃないよ、ラフに入ったからお手上げだ!」「エッ、マウソンドの向こう、あんなになってるの?」などなど愚痴るうちに、

ついに「一メートル右に行けば坂上田村麻呂、何でオレのはオモドリサン!」などと、下手さを忘れ、口惜しさを駄洒落でまぎらわすヤケッパチも出る始末、一日中コースに泣かされ、己の未熟さとゴルフの妙を知らされたラウンドになりました。

また今回は66期の森山秀夫君を口説いて参加してもらいました。

元甲子園児の「止まってる球を打つのは得意じゃない!最近やっていないんだから!」の言葉を信じてスタートしたんですが、前半は確かにダフリあり、トップありで言葉の通り大叩き、しかし午後は実力の一端がよみがえり(ほんの一端です)、雨中を飛ばすは乗せるは、後半15打も縮めて十位の飛び賞。

いつもメーカー役を務める村松君が今回不参加とあって「誰がメーカーか!」と心配顔の石原良昭君は、前半の森山君のスコアを見て「よし今日のブービーは俺だ!」と読んで午後のスタート。終わってみれば当の本人がメーカー。

前回優勝の清水照彦兄も、準優勝の野沢正憲君も前回比それぞれ9打、6打も多く叩く雨中戦で、二桁でラウンド出来たの



☆☆☆☆☆☆
一月八日全員集合!
村田国務大臣就任祝い
の会を催します
79期の動き 上田 尚亮

村田吉隆氏の国務大臣就任のニュースを、私はミュンヘンで聞きました。オクトーバー・フェストのなかで素直に大喜びしました。村田氏は京大では志田洪顕氏、白老の税務署時代は王子製紙の梅島薫氏、沖繩サミットでは毎日新聞の故松永健吾氏に出会って助けてもらったそうです。

79期が主催して十七年一月八日(土)ホテルアソシア静岡で十一時半から十五時の予定で、大臣就任パーティをする予定です。多数参加ください。

十一月二日に在東京の野球部員、有本(大野)勲、稲葉啓一、大石直人、熊井秀則、そしてオプザバーとして野島喜吉の諸君、さらに上田尚亮の六人が集まりました。

静岡では一月二日に四十三年連続して野球部の同期会を開催しております。東京では初めて。みんなが集いたくなる歳になりました。その席で村田氏を祝福しました。

☆☆☆☆☆☆☆☆

まことわりつぐ雀

76期 鈴木浩

私は今雀を飼っています。野鳥は許可を得ないと飼育できないとの事ですが、飼ってしまっています。

巣から落ちたのか、あるいは巣立ちに失敗してしまっただけ、地面にいたその小雀をつかまえました。昨年の夏少し前のことでした。一度は室内で逃げ家具の下に入り込み、物音を立てずにじっと動かないという、弱い動物の本能に従ったであろう行動で見つからず、大変往生しました。

が、このごく初期の事件が過ぎた後は落ち着いて、無事に経過、ちょうど九官鳥を飼っていましたが、その餌（水で軟らかくし、成分も虫を食べる成長期の雀にとってもあっていると思ふ）を強引に口に押し込むという荒治療により、何とか餌付けに成功しました。すると、もうそのかわいらしさに今更自然に戻しても、とても生きていけないと勝手に解釈して、違法に飼育しているらしいです。

現在では、とても野鳥とは思えないくらい馴れて、戸外で仲間が鳴いてもまったく関心を示さず、一日中鳥籠から出し

てほしいと催促、外に出してやると、人間にまことわりついて、うっかり潰したりしないかと、気を付けるのが大変なほどです。これが雀にとって良いか悪いか、やっぱり悪いことでしょうか。

近くで様子を見てみると、鳴き声や動作の感情の表現が実に豊かで、知能も思っていたよりかなり高そうです。外にいくだけでもいるこの小鳥がこんなにも愛らしいものかと、また羽の色も室内にいるためか、実にきれいで素敵です。

このように、小さな生き物は寿命も短いだろうし、死んだらさぞさびしいだろうと、余計なことまで考えている、親ばかならぬペットばかを發揮している最近のわたしです。

☆お知らせ

静中・静高関東同窓会の年会費は、一年間三千元です。会報を発送する年二回は振込み用紙を、また総会会場で徴収する会費は未納の方にお願ひしているものです。たまに二回納めていただいている方がいますが、寄付金扱いにさせていただきます。よろしくご協力お願いいたします。

●新刊紹介

すばらしい77期女性、五島さんと増田さん力こもる二冊刊行

『ナノの世界が開かれるまで』

『PLAY THE GLASS』

九月の半ばに静岡県立大学経営情報学部・同大学院教授の五島綾子さんが『ナノの世界が開かれるまで』（海鳴社）を出版。また十月にはイタリアに制作の拠点を置くガラス造形作家の増田洋美さん（いづれも77期）が『PLAY THE GLASS』のカラー写真集の出版とともに、東京銀座で個展を開いた。

分野は異なるが、二人の長年に渡る集積の集大成といえるもので、おそらくその足跡は長く残ることになる力のこもった二冊です。

五島さんの著作は、門外漢の私でさえ「ナノとは10のマイナス9乗（10億分の1）を意味するが、1メートルを地球の直径にまで拡大しても、1ナノはやっ」とビームの直径に相当する、気の遠くなりそうな小さな世界である」という書き出しから引き込まれてしまう。

これから研究に取り組む学生や科学好きな人はもちろん、科学が苦手な人も、きつと興を覚

えます。

それは五島さんが、科学の分野だけにとどまらず哲学や芸術との分離融合、技術と経営の融合に早くから着目し、人材を育成しようとしてきた、謙虚で深い洞察を持っている労作だからです。

一読後、最先端のナノテクノロジーの素晴らしい複合的な将来像とその不安をも含めて、日本をそして世界への新しい展望と視野を拡げてくれる本です。

一方、増田洋美さんは、二十年前から東京・銀座で個展を開き、ここ数年はベネツィア・ムラノ島などイタリアと日本とで、華やかな活動をしています。ガラスはどうしても、その繊細さから工芸品としての鑑賞をされることが多いが、増田さんはそうした枠を軽々と飛び越えたダイナミックで新鮮な芸術作品群を初めから発表し続けています。

今までの集大成のこの作品集は、増田さんの「ガラスと遊び、



ガラス作品群の前で、刊行された『PLAY THE GLASS』を持つ増田さん

ガラスを奏でる」というテーマを、自由な身体感覚と彼女の中にある美と格闘させ、自然の木々の下や、古い建造物の中や石畳の上に展開して魅惑的です。

装飾性を捨て去りながら、なおガラスの持つ繊細な美しさと拮抗する力強いスケールの大きい生命力が、自然の中で光彩を放っています。ガラスの色彩の微妙な変化を一瞬のうちに掬い取り、奏でる音は、観る私たちに、鋭くそして多弁に語りかけてくれます。

後藤嘉代・77期

一晩で紅葉が出現

秋の有志旅行

87期 高橋 宏

同窓会の人脈をフルに活用した各期の有志による旅行も今年で三回目、九月から垣生先輩に度々のお願いの結果、「安・近・短」のキャッチフレーズにより、秋の紅葉を楽しむ河口湖周辺と決定した。晴天の十一月五日保土ヶ谷に今回のメンバー、浦田さん、後藤さん、篠原さん（以上71期）、清水さん、野方さん（同77期）、小林さん、垣生さん（同78期）、高橋（87期）の各幹事を中心とした八人が集合。

浦田先輩の愛車BMWを名ドライバー清水先輩が運転、昼過ぎに東名から河口湖に入り、昼食の後地元のスーパで買い物をして、垣生先輩の人脈によるある企業の保養所に到着。

別荘地を入っていくと、もう紅葉の真っ盛り、保養所といっても金持ちの別荘といった表現が正しい所。簡単に支度を済ませて紅葉の道を抜けて見晴らしの良い展望台のある紅葉台という所に車で上った。

道はでこぼこ、車のすれ違いも時間がかかったものの、行ってみるとそれも良い思い出、頂上に登ると絶景で、何と富士山にかかっていた雲が晴れ上がり、

富士山と裾野の樹海の景色を楽しめた。帰って別荘近くの道の駅にある「ゆらり」という温泉に入った。

ここの洞窟風呂や五右衛門風呂は一回入ってみる価値があり、一時間では短いくらいだった。

さてお楽しみ会の宴会は清水先輩のアイデアで、折角だから皆で作って別荘で食べようということになり、これが大正解。鉄板焼きのほかの豪華夕食とお酒に、仕上げは炊き立てご飯と手作り味噌汁が、飲める人、飲めない人にも大変好評だった。

恒例の楽しい語らいにBGMは垣生先輩の用意したオールデイズ、さらに麻雀卓を見つけて、卓を囲めば二十年ぶりの小林先輩が逆転大勝利。合宿よろしくみんなで布団を敷き、野方先輩は天井部屋に梯子で上がり、ぐっすり眠れたとのこと。

翌日起きてみると、別荘のすぐ手前が見事に紅葉していて、これには一同驚嘆。篠原、後藤両先輩に頼らず朝食は全員で料理、もちろん朝から残りの酒類が出ていて、土曜の朝から飲む酒はまた格別。それから風穴と青木ヶ原の樹海を見に出かけたが、幸い誰も樹海に迷わずに無事生還。また別荘に戻って昼食、本当にみんなで食べる食事は美味しく、良く食べ、良く

飲み、良く語りました。この別荘は十二月になると閉鎖して、来年春先にまた泊まれるとのこと、次回はまた新緑、紅葉を見に来る約束をしての散会となった。



関東同窓会役員担当

今回の役員改正で、以下の人たちが各々の担当になりました。よろしくお願いいたします。

〈監事〉松下晴一(74) 鳥巢修(89)

〈事務局〉役員連絡、静岡本部窓口など 児島英男副会長、浦田彰副会長、野方重人副会長

〈会計〉年会費徴収、収支の把握など 児島副会長 仲川信正(73) 山中博司(73)

〈総会〉担当期の幹事を支援し年次総会の企画など 浦田副会長 秋山好(82) 田畑秀典(82) 八牧浩行(82)

〈会報〉会報の編集、原稿依頼、校正・校閲など 野方副会長 清水雅尚(77) 村松貴彦(77) 吉野卓史(80) 本多英一(81) 高橋宏(87) 新村暢宏(89)

〈会員〉各期幹事の委嘱、幹事会の企画実施など 浦田副会長 垣生尚敬(78) 仲谷博明(81) 大羽章弘(93)

〈規約〉規約改正案の作成など 野方副会長 上出和子(80) 岡部政之(81) 荒井千明(90) 〈H・P〉当会ホームページの作成編集など 石川嘉和(87)

編集後記

▼「あれ！何か変だ」と思った方がいたでしょう。そう前回まではB5版の大きさでしたが、世界的流れに統一しようということ、A4版に版型をひとまわり大きくしました。天地・左右に余裕を持たせ、綴じやすくしました。

▼会報の各期の情報は、その前後の会員しか読んでもらえないことが多いので、最低限の小見出しを勝手につけさせていた

きました。御了承ください。

▼前回からの引継ぎが遅かったため、時間不足で発刊というところになりました。なにかと無理を言ったり、至らないところがありましたことお詫びいたします。

(以上村松)

▼今回同期の石山建一君の総会での講演では、講演内容の点検をさせていただきましたが、改めて感心したことは、彼がやるべき目標を定め、その達成のために一日一日を積み上げてきたという努力でした。自ら過ぎ去りし人生の反省に思いを致したしだいです。

(清水)

▼今回より会報担当となり、校正のお手伝いをさせていただきました。馴れない仕事で苦労しましたが、諸先輩の格式高い表現など、大変勉強になりました。

(吉野)

▼会計担当から会報担当になりました。今後ともよろしくお願ひします。

(新村)

原稿募集

★会報は六月と十二月に発行するのを原則としています。四月と十月までに事務局までご寄稿ください。

印刷・マコト印刷株式会社
東京都板橋区大谷口北町84・1
TEL03・3972・9955

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

静岡市清水入船町11-1
TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)

京浜支店 東京都港区芝公園1-2-12
TEL 03 (3432) 7152

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号
TEL 054 (262) 1111(代)

東京支社 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤正憲 (64期)

東京都品川区南品川2-17-11
TEL 03 (5783) 3841
FAX 03 (5783) 3755

自動車・火災・傷害保険 大 高 保 険 事 務 所

代 表 清水雅尚 (77期)

東京都渋谷区東3-15-8
TEL 03 (3406) 9350
携帯 090-7800-3767

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〈事務所〉
〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
敷下ビル6階
(TEL) 03 (3251) 2348
(FAX) 03 (3257) 0820

昼2時より夜11時まで診療

タカラ歯科診療所

代 表 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分
TEL 0120-376-480
FAX 03-3710-8847

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)
OSAMU TOSU

〈事務所〉
〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848
E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……首都圏中心に60店舗

株式会社 アイセイ薬局

「医業分業のパートナー」

代表取締役 岡村幸彦 (93期, 応援指導部)

東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5
TEL 03 (5651) 7200
<http://www.aisei.co.jp>

東京無線タクシーグループ 公和自動車交通株式会社

東京都新宿区東五軒町3-3 ☎03-3269-3281

都心のオアシス・ゴルフ練習場

(株)公和ゴルフセンター

大江戸線・若松河田駅隣り ☎03-3202-6558

代表取締役 山中博司 (73期)

限りある国土利用に
貢献する

株式会社 芝工設

専務執行役員

田畑秀典 (82期)

〒105-0013 東京都港区浜松町1-16-5 芝ビル
TEL 03-5777-2315

取扱い工法

テールアルメ工法

補強土壁工法

軽量盛土工法

地盤改良工法